

信長公と紫式部ゆかりの地へ!

【行 程】

小坂公民館(8時出発)⇒⇒⇒朝日観音・福通寺⇒⇒⇒織田文化歴史館・劔神社
⇒⇒⇒＜昼食・オタイコ・ヒルズ＞⇒⇒⇒⇒越前陶芸村⇒⇒⇒⇒⇒紫ゆかり館
・紫式部公園⇒⇒⇒越前そばの里⇒⇒⇒小坂公民館(18時30分頃着)

朝日観音・福通寺

北国三十三か所観音霊場

泰澄大師は、白鳳11年(682)越前国麻生津(福井市三十八社町)で誕生しました。生まれながらにして仏法に縁の深かった泰澄大師は、観音菩薩の霊夢に導かれて越知山(おちさん)に入り、厳しい修行の末に大いなる霊験を示され「越の大徳」と呼ばれるようになります。当山は、養元年(717)泰澄大師の開基と伝えられています。

また、大師は諸国を巡錫(じゅんしゃく)し、同年には日本三霊山の一つである白山を開きました。(他、立山・富士山)



泰澄大師

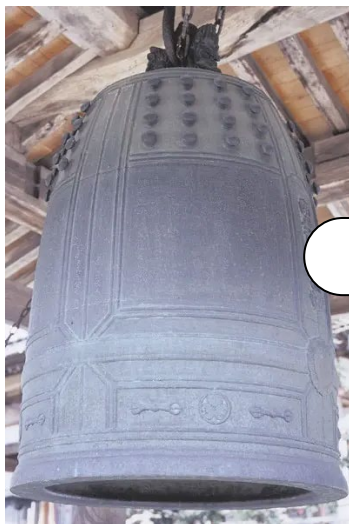


正観世音菩薩立像(秘仏)
福井県指定文化財
鎌倉時代
寄木造り(カヤ材)
像高204cm

寺伝によれば、この地に来られた泰澄が、山中に土地の人びとを悩ませている悪魔が居るのを知り、その魔行を破るため三七(さんしち)日(21日)祈念されたところ、悪魔が失せて山の中の楠の太木が光明を放ったので、泰澄は喜びこの霊木を一刀三礼(いっとうさんらい)して彫刻し、正観世音菩薩像と千手観世音菩薩立像を作られました。すると開眼供養の時、光明が四方に輝いたので、この山を朝日山、里を朝日村と呼ぶようになりました。



千手観世音菩薩立像
福井県指定文化財
平安時代
一木造り(ケヤキ材)
像高180cm



梵鐘

製作年は貞享3年(1686)加賀藩御用釜師であった宮崎彦九郎義一(初代宮崎寒雉)とその子彦三郎義治(2代寒雉)による合作である。

その他、鱈売地蔵尊

劔神社



織田木瓜紋(五つ木瓜紋)

劔神社は越前二の宮
(越前一の宮は敦賀の氣比神宮)

〈御祭神〉

「素盞鳴大神」(すさのおのおおかみ)

「氣比大神」(けひのおおかみ)

「忍熊王」(おしくまのみこ)



劔神社本殿(県指定文化財)

劔神社の総祀(そうし)は、遙か北に仰ぐ座ヶ岳(くらがだけ)の峰に「素盞鳴大神」を祀(まつ)り“劔大神”と称えてきたことに始まります。

仲哀天皇(第14代)の第2皇子・忍熊王は、瀬田川の戦いに敗れて淡海国(おうみのくに)瀬田より越国(高志国)の入口である角鹿(つのが・敦賀)に來ました。その後、角鹿の地より軍船で北上し宇見浦(越前町)に着かれました。

この頃、この丹生山地には悪賊がはびこり村人たちを悩まし続けていることを知り、皇子はこれらの賊徒討伐に向かいました。しかし、賊徒の反撃は激しく皇子の身辺も危なくなってきました。辛うじて、山中に逃げて大木の洞穴で身を休めて仮眠していると、その夢枕に『皇子努力せよ
われ今汝に靈劔を授べし 之を齎き
奉らば 賊徒は直ちに平定すべし
我は素盞鳴尊なり』と告げられました。



皇子は、夢がさめて山の中を行くと伊部臣(いべのおみ)と出会い、伊部臣から神劔(みつるぎ)を奉り、力を得た皇子は賊徒を討伐し、この地に平和が戻って安住の地となりました。



皇子は、社殿を建て、神劔を素盞鳴尊の御霊代(みたましろ)として祭祀しました。

その後も皇子は、村人たちに産業を教え開拓してきましたが、年若くして亡くなりました。村人たちは深く悲しみ、感謝の誠を捧げ社を造り、素盞鳴尊を主神に氣比大神を配神として祀りました。

更に、忍熊王が薨御(こうぎょ)されると、その徳を慕い忍熊王を御祖神(みおやのかみ)と仰いで合祀し、三座の神を「劔大明神」と称えました。

また、織田神社は保食神(うけもちのかみ)を主神と祀る産土(うぶすな)の社でしたが、ここに忍熊王の父・仲哀天皇と弟・応神天皇(第15代)の2柱を合祀しました。



織田神社(旧)氣比社

織田信長公氏神の神社

越前町織田は、織田信長の祖先の故郷で、越前織田荘の荘官として、また越前二の宮劔神社の神官として代々奉仕してきた由緒ある家柄でした。

応永年間(1394～1427)、神官の子に「織田常昌」(おだじょうしょう)という立派な人物がいました。時の越前の守護・斯波氏(しばし)にその才能を認められ、家臣として取り立たされて尾張の国に派遣されました。苗字は故郷の地名をとって「織田」を名乗り、織田氏は尾張で次第に勢力を伸ばして守護代を勤めるまでになりました。



天文3年(1534)5月、信長は、尾張の守護代の一族である織田信秀の子として生まれました。また、信秀の子には、他にも悲劇のヒロインとして有名なお市の方がいます。永禄3年(1560)5月に桶狭間の戦いで今川義元の大軍を少ない兵で倒し、頭角を現すことになります。その後も天下布武を掲げ天下統一を目指しましたが、天正10年(1582)に本能寺の変であえなく最期を遂げ、天下統一の夢は消えました。

信長は、戦国の乱世にあっても、劔神社を氏神として深く尊崇(そんすう)し、武運を祈るとともに多くの神領を寄進し社殿を造立するなど、劔神社の保護と住民の治安に尽くしています。

織田の人々は信長の功績と威徳を偲び、御霊を境内の小松建勲神社(こまつたていさお)に合祀しました。(御祭神)平重盛公・織田信長公



小松建勲神社

梵鐘 国宝

劔御子寺鐘
神護景雲四年
九月十一日



奈良時代末
神護景雲4年(770)
光仁天皇(第49代)
のご奉納



劔神社本殿(県指定文化財)

- ①柿葺き(こけらぶき)の三間社入母屋造
- ②正面に千鳥破風(ちどりはふ)が前方に突き出し、その下に唐破風(からはふ)をもつ向拝(こうはい)が設けられている。
- ③江戸初期寛永4年(1627)の華麗な姿をとどめている。





【紫式部の一生】



973年(1歳) 紫式部 生まれる。
996年(24歳) 越前国守となった父藤原為時
(ためとき)について越前国に行く。

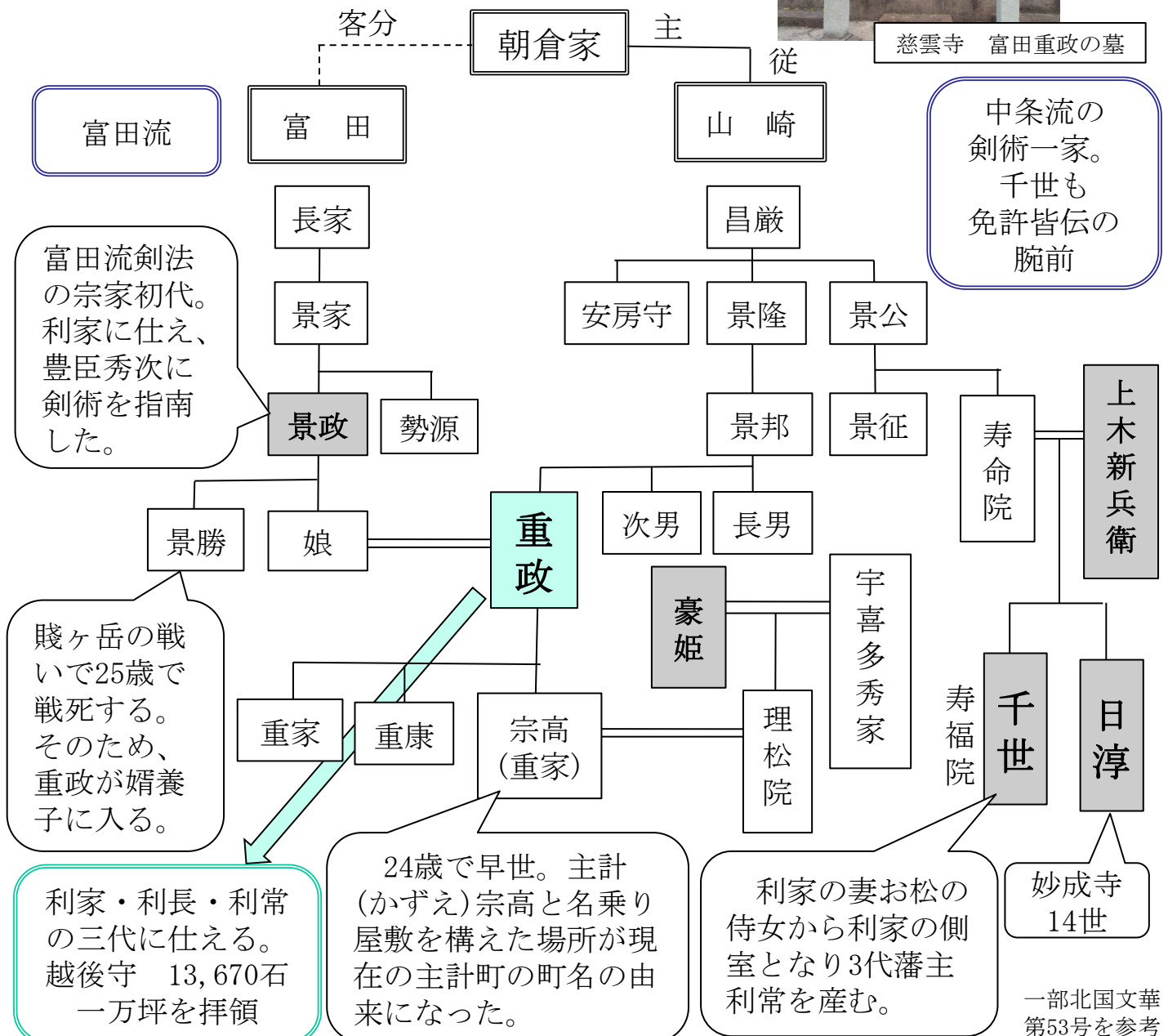
997年(25歳) 冬のころ京へ帰る。
998年(26歳) 藤原宣孝(のぶたか)と結婚し、翌年むすめ賢子(けんし)を生む。
1001年(29歳) 清少納言の「枕草子」ができる。
宣孝が死去する。その後「源氏物語」の執筆を開始する。
1006年(34歳) 人気を博し藤原道長らの目にとまり、一条天皇の中宮
彰子(しょうし)に仕える。
1020年(48歳) 紫式部 死去する。



前田家 剣術の指南 ナンバー1 富田重政
菩提寺 東山慈雲寺



慈雲寺 富田重政の墓



【前田家と越前府中(武生)】

1) 利家・府中城主

天正3年(1575)、越前一向一揆を平定した織田信長は、北ノ庄城に柴田勝家を置き、勝家の目付け役として、府中三人衆(3人で合計10万石)を配置した。

- ・ 前田利家…府中城(越前国の国府があった地で「越府城跡」の碑がある。)
- ・ 佐々成政…小丸城、 ・ 不破光治…龍門寺城 (えっふ)

2) 千世(千代保、寿福院)の生誕地(越前市高木町)

天正5年(1577)、利家が領地巡覧の時、高木村の上木新兵衛方で昼休みをした。その時、新兵衛の馬を見て所望し、新兵衛は早速献上する旨を申し出た。利家は新兵衛が納める租税を免除し、外に願い事がないかと尋ねると、新兵衛は、娘二人を召使ってほしいと願い出て、姉妹は府中城へ奉公した。(千世7歳)

その後、利家の正室・まつの侍女として前田家へ入り、文禄の役において名護屋の陣中にあった利家の身の回りの世話を務めた際にその美貌に見染められ、側室となって懐妊し利常(3代藩主)の生母となった。文禄2年(1593)11月

3) 利家 府中城主から七尾城主へ

天正9年(1581)、利家は能登国23万石を与えられ七尾小丸山城主となり一国を治める。嫡男利長(後の2代藩主)は、織田信長の娘・永姫を府中城に迎えた。

4) 前田家の菩提寺・宝円寺

利家が府中城主のころ、越前高瀬の曹洞宗宝円寺の住職・大透圭徐(だいとうけいじょ)和尚に帰依した。その後、七尾小丸山城主になると、同和尚を七尾へ招き「七尾宝円寺」(後の「長齡寺」と改称)を創建した。

天正11年(1583)、利家が金沢城主となると再び金沢へ招き、現在の兼六園の地に石川門と相對して「護国山宝円寺」を建立し前田家の菩提寺とした。

5) 利家の祈願所・波着寺

波着寺は、泰澄大師が越前一乗谷に創建した寺院で、府中城主となった利家は、波着寺の住職・安養坊空照(くうしょう)に帰依し祈禱所とした。天正11年(1583)金沢城入城に際して、波着寺の住職・空照と秘仏十一面觀世音菩薩などと共に金沢に招き、現在の兼六園の梅林付近に寺地を与え祈禱所とした。

また、利家は、空照に一向一揆の時代に衰退した白山比咩神社や利家に反抗し全山焼失した石動山の再興を任せ、後に石動山天平寺の貫主となった。

6) 利常(3代藩主)の生母・寿福院の菩提寺・経王寺

寿福院は、実家の菩提寺で実兄である越前府中経王寺の住職「日淳上人」(後の妙成寺14世)の弟子である養仙院日護を招いて慶長10年(1605)小立野に「寿福山経王寺」を建立した。慶長19年、芳春院(まつ)と代わって人質として江戸へ。

7) 前田家の指南役・富田重政(系図参照)

富田長家は、越前国一乗ヶ谷で中条流剣法を伝授したが終生浪人を続けた。その後、孫の景政が利家に仕え、天正5年(1577)今井彦右衛門と七尾に雨宝院慈雲寺を建立し、元和元年(1616)に現在の地(東山)へ移った。

重政は、越前国府中で利家に使え、天正12年(1584)景政の婿養子となる。

【神宮と神社】

1. 神宮…天皇や皇室の祖先神(そせんしん)を祀っている神社
伊勢神宮(天照大神)、明治神宮(明治天皇)、気比神宮(仲哀天皇)など
 2. 大社…全国に多数ある同名の神社の宗社で崇敬を集める格式の高い神社
出雲大社(大国主大神)、春日大社(春日神)、気多大社(大己貴命)など
(おおなむちのみこと)
 3. 神社…一般的な神社で、神宮や大社よりは規模が小さい神社
 4. 宮……天皇や皇室にまつわる人物を祀っている神社
北野天満宮(菅原道真)、日光東照宮(徳川家康・東照大権現)など
- ①勸請(かんじょう) ……神仏の分身・分霊を他の地に移すこと
 - ②遷座(せんざ) ……神仏や天皇の座を他の場所へ移すこと
 - ③鎮座(ちんざ) ……神霊が一定の場所にしずまっていること
 - ④産土神(うぶすなのかみ) ……自分の生まれた土地を守る神

【用語の意味】

1. 国府(こくふ) …奈良時代から平安時代に、中央から派遣された国司が政務を執り行う施設として各国に一つずつ設置した政治的中心都市である。
2. 国司…中央から派遣された貴族で、派遣された国の行政・財政・司法・軍事全般を行う。
3. 国分寺(こくぶんじ) …天平13年(741)に聖武天皇(第45代)が仏教による国家鎮護(こっかちんご)のため、当時の日本の各国に建立を命じた寺院である。
 - ・男僧が住む寺⇒国分寺(こくぶんじ)or国分僧寺(こくぶんそうじ)
 - ・尼さんが住む寺⇒国分尼寺(こくぶんにじ)
4. 総社(そうじゃ) …11世紀後半以降、国内の諸神を一ヶ所に合祀し、国司の神拝を簡略化するために設置した神社をいう。
5. 定額寺(じょうがくじ) …奈良・平安時代に官大寺(かんだいじ)、国分寺・国分尼寺の次に位置づけられた寺格を有した寺院をいう。
6. 守護…鎌倉幕府・室町幕府が置いた武家政権下の職制で、国単位で設置された軍事・行政・治安維持・武士の統制を主な役割としていた地方官です。

一所懸命とは

「いっしょけんめい」は、「昔、武士が賜った『一か所』の領地を『命を懸(か)けて』守り、それを生活の頼りにして生きたこと」に由来する。